

## 株式会社アサマソフトウェア

### 少額短期保険システムをRIAで構築 uniPaaS RIA 採用で開発期間が半分に短縮

アサマソフトウェアは、少額短期保険用の代理店業務システムを、RIA(Rich Internet Application)で開発しました。uniPaaS RIAを採用することにより、機能性と操作性を求められながら短期間でサービスインできました。

#### 機能的かつ使いやすさが 最大の要件

浅間山と八ヶ岳に挟まれた風光明媚な長野県佐久市に本社を置くアサマソフトウェアは、2009年1月に「e-Net少額短期保険株式会社」の少額短期保険業務用システム「NEWS」を開発しましたが、「業務を大幅に省力化する優れたシステム」として評判を呼んでいます。

少額短期保険とは、保険金額が少額かつ短期間の保険をいい、2006年4月に施行された新しい制度です。家財関連の少額短期保険を専門とするe-Net少額短期保険株式会社では、2008年5月に事業者登録の申請を行い、3カ月あまりで認可が下りるだろうとの予測の下、事業開始に間に合うよう短期間でのシステム開発をアサマソフトウェアに要請しました。

システムの概要は、保険代理店がWeb経由でログインし、契約情報の入力や家財物件情報の登録・メンテナンスを行えるというものです。代理店担当者の中には40代以上のPCの操作に習熟していない人も少なくないため、機能的であると同時に使いやすさが最大の要件となりました。

依頼を受けた会社では当初、画面周りはHTMLで、業務ロジックはマジックソフトウェア・ジャパンの開発フレームワーク「Magic uniPaaS」を使って開発を進めました。しかしこの方法では、業務ロジックを修正するとそれに関連する画面プログラムを手直しの必要があり、「数カ月という短期間で開発を完了させるには

フィットしない」(代表取締役の小林紹二氏)との結論に至りました。さらにHTMLベースの画面では、クライアント/サーバー型システムにおけるクライアント・ソフトのような柔軟な操作性を望めず数々の制約が生じるため、「そうした点の解決も課題として浮上していました」と小林氏は振り返ります。

#### Magic uniPaaS RIAへ 急きょ切り替え

そこで同社が目にしたのが、当時販売がスタートしたばかりの「Magic uniPaaS RIA」でした。この製品は、Magic uniPaaSのオプションとしてリリースされた新機能で、業務ロジックを記述すると、実行エンジンがサーバー側ロジックとクライアント側ロジックを自動的に判別して分割・配布し、サーバーとクライアント間で同期を取りながら実行するという優れたものです。言い換えると、開発者は業務ロジックの開発だけに専念でき、通信処理や同期制御などを考慮する必要がありません。

「Magic uniPaaS RIAを採用した結果、開発生産性は約2倍に、開発期間は半分に短縮したと見ています。しかも画面はリッチで機能性にあふれ、使いやすくとまっています。より手の込んだ凝った画面を作るにはHTMLやJavaScriptを駆使すればよいのですが、その必要がないくらいMagic uniPaaS RIAは完成度の高い画面を生成します。“シンプル・イズ・ベスト”です」と小林氏は評価します。

開発に割いた要員は1名で、約3カ月で



#### USER PROFILE

# ASAMA

株式会社アサマソフトウェア

<http://www.asamasoft.co.jp/>

- 本社 長野県佐久市中込1267-1  
スマイルビル2階
- 設立 1981年8月
- 資本金 1000万円
- 売上高 1億1000万円
- 従業員数 8名
- 事業内容
  - ・受託ソフト開発事業：Magic uniPaaSによるソフト開発
  - ・パッケージソフト開発事業
  - ・Magic uniPaaSによるパッケージソフト開発
  - ・不動産会社向け……「リアルエステートシステム」
  - ・情報サービス事業
  - ・不動産情報Webサイト発信(iモード含む)



小林紹二氏  
代表取締役

# 株式会社アサマソフトウェア

完成にこぎ着けています。e-Net少額短期保険が当初想定した事業開始日に間に合わせることができました(実際の事業認可およびシステムのサービスインは2009年1月)。

また同社では、NEWSのサービスイン(2009年1月)直後にプログラムの改変を急ぎよ行いましたが、小林氏は「Magic uniPaaS RIAの威力を改めて実感した」と語ります。

「少額短期保険では、被保険者の保険金額が1000万円(複数契約合算で5000万円)以下と規定されているので、契約時にはそれを確認するための名寄せが不可欠になります。NEWSの初期バージョンでは名寄せ用プログラムを別に設け、名前と生年月日で検索できるようにしましたが、申込画面で入力する被保険者の名前を利用すれば自動的に名寄せできると考え、サービスイン後1週間で変更しました。変更はサーバ側だけで済み、クライアント側の画面とロジックは自動配信される仕組みを持つMagic uniPaaS RIAでなかったら、これほどの短期間では改修できなかったと思います」

## 既存パッケージへの組み込み ASP版への展開

同社は今、NEWSを核に多面展開を推進中です。1つは、同社が1992年に開発した不動産業向けパッケージ「リアルエステート・システム」からNEWSへアクセスする仕組み(e-Net少額短期保険連動機能)の組み込みです。不動産業では、賃貸物件の管理に家財保険や家賃保証保険など各種事務が密接に関係してくるので、不動産業務の一連の流れの中で処理できる

ようにしたものです。

もう1つは、リアルエステートシステムのASP版で、ユーザーはRSAセキュリティ社のワンタイム・パスワード「RSA SecurID」などを使ってアサマソフトウェアのASP用サーバーへログインし、利用します。

小林氏は、「こうした多面的な展開も、Magic uniPaaSベースだから簡単に行えます」と語ります。同社では、1990年代からMagic uniPaaSを使ってソフトウェア開発を進めてきており、リアルエステートシステムもその1つです。また、SI案件もすべてMagic uniPaaSで開発しています。NEWSの開発で、ツールをMagic uniPaaS RIAへ急ぎよ切り替えることができたの

も、Magic uniPaaSの十分な経験と技術的な蓄積があったからと言えます。

「90年代のオープン化・ダウンサイジング化の中で、システム開発に最適な言語を探索した結果、Magic uniPaaSの前身であるdbMAGICに行き着き、選択しました。dbMAGICはその後、大規模で複雑な基幹システムも構築できる現在のMagic uniPaaSへ成長しますが、非常に使いやすく生産性の高いツールであると評価しています。弊社は今後も、Magic uniPaaS一筋でやっていくつもりです」

アサマソフトウェアは、今回のNEWS開発によって、不動産業システムに強いソフトウェア会社という評価を高めています。

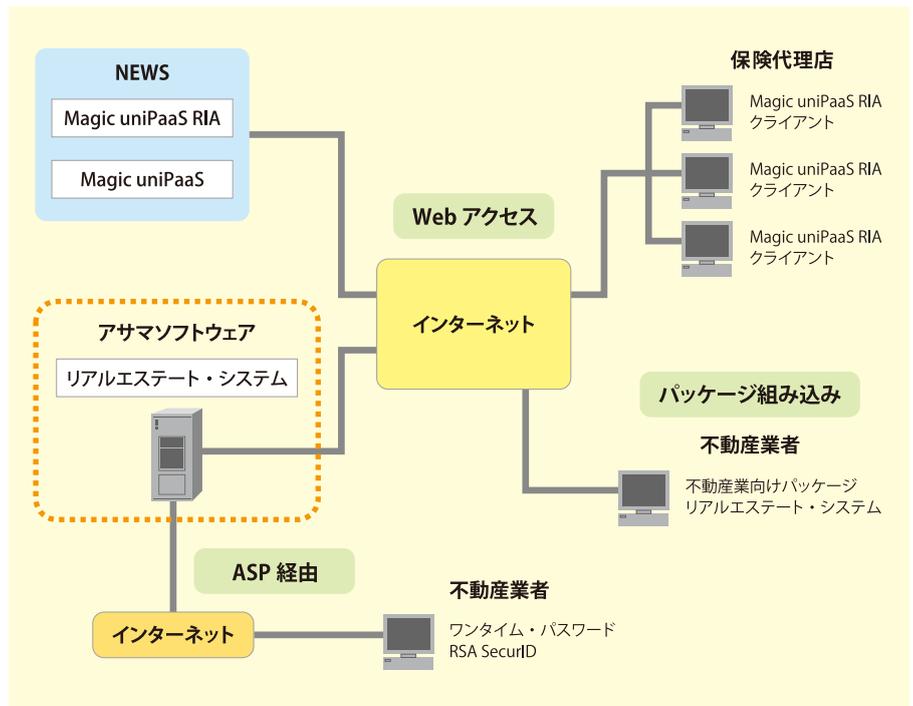


図 NEWSの利用システム概要